

こうちょう おも 校長の念い



ず せいさくしゃ
図 制作者
ぶんげい しょどうぶ
文芸・書道部
ねんぶんげい ぶいん
3年文芸部員

「あの人たち」ではなく、「私たち」と考えよう！

ぜんごうはっこうび ほんじつ
前号発行日から本日までに、1、2年生の定期テストや3年生の球技大会が行われました。そして、5年ぶりに全校生徒が体育館に集まり、1、2年生が様々な工夫を凝らして感動的だった卒業生を送る会と、厳粛な雰囲気に包まれた素晴らしい卒業式が行われ、3年生に別れを告げました。今後は、1、2年生の進級に向けての行事が行われます。

さて、卒業式に、3年生の皆さんの「見かけた思いやり」を伝えましたが、1、2年生の皆さんにも発表ノートに入力してもらう予定です。修了式にいくつか紹介します。思いやりの行動を、他の人は正しく見えています。これからも、思いやりを感染させてください。

わたし ことしいちねんかん あいて たちば た かん おも
私は、今年一年間「相手の立場に立ち、感じて、思いやりの心で行動しよう」という念いを伝え続けましたが、今年度最後となる第15回目の「念い」は、「あの人たち」ではなく、「私たち」と考えよう！」です。この「念い」を伝える物語に、アメリカのドクター・スー著の「スニーチ」があります。「スニーチ」とは、おなかに星がついているかどうかの違いがあるだけで他の部分は全く同じという、鳥みtainな架空の生き物です。原作が日本語訳されていないので、ChatGPT等で調べ、まとめたものを次に示します。

おなかに星のあるスニーチは、自分たちは優れていると思い、星のないスニーチを軽蔑しています。そこに、マクビーンという商売人が、おなかに星をつけたり消したりできる機械を持ってきました。まず、星のないスニーチに「3ドル払えば、この機械でおなかに星をつけることができますよ。」と言いました。皆が列をなし、次々に星のあるスニーチが誕生しました。その結果、元々星のあるスニーチは、星のないスニーチと区別がつかなくなり困りました。そこで、マクビーンは、元々星のあるスニーチに「10ドル払えば、この機械でおなかの星を消すことができますよ。」と言いました。元々星のあるスニーチは、次々とお金を払い、星を消してもらいました。すると、星をつけてもらったスニーチも、お金を払い、星を消してもらいました。スニーチは、マクビーンの機械の中を行ったり来たりし、そのたびにマクビーンにお金を払って外見を変えました。

結局、スニーチたちは自分たちの行動の愚かさや区別の無意味さに気づきました。彼らは、おなかに星がついていなくても、本当の平等と受け入れは外見からではなく、内面から来るものであることを理解し、ありのままの自分を受け入れることを学びました。

見かけの違いで、「私たち」を区別してはいけません。「あの人たち」を「私たち」に変えて話ができるようになりましょう。そのために「あの人たち」と似ているところを探しましょう。そして、「あの人たち」に私と似ていることを伝えましょう。互いに知り合うことで、共感できます。これを意識して、新学級でも充実した中学校生活を送ってください。